

今月のゲストは、若手のホール経営者を中心に常に先進的な行動力が評価されている日本遊技産業経営者同友会の松田高志代表理事。4年半続いた高濱正敏前代表理事時代を引き継いで、東日本大震災で日本中が混乱していた昨年5月、松田新体制はスタートした。それから10か月を経過して、震災対応から遊技産業の現状と明日の展望までを、率直に熱く語っていただいた。

まつだ・たかし

1959年生まれ。岡山県出身。平成18年㈱エムズ・ユー代表取締役。06年同友会理事、07年副代表理事、11年代表理事就任。日遊協では08年明日の遊技機を造る委員会・健全化推進部会長、10年明日の遊技機創造室・副室長。

聞き手 = 「日遊協」編集部

◀産業の発展のために熱く語る松田高志代表理事

ゲスト

日本遊技産業経営者同友会代表理事

松田高志氏

産業の20年先を考えて

トツプは危機感持ち議論を

—代表理事に就任されてもうすぐ1年です。いまの率直なご感想をお聞かせください。

松田 代表理事に就任したのは去年の5月18日ですが、それ以前に3・11東日本大震災があり、業界も大きな影響を受けました。今振り返ってみると、この1年は非常に緊張した1年であったな、という気がします。

**緊張感に包まれ
あつと言う間の
1年でした**

大震災対応は3・11の4日後から始まりました。そのため、毎週のように上京しておりました、それから今までのことを考えると、緊張感に包まれた、あつという間の1年間、という感じですね。輪番店休が終わったのが昨年9月末。

このときようやく少しホッとしたのを覚えています。3・11というのは大変悲しいできごとではあります。業界としてはホール5団体がよくまとまって、輪番店休などもできました。危機意識を持つてすれば、みんなでまとまれるんだ、という自信、自覚のようなものも生まれたのではないかと思います。

**被災地に向け
22週間かけて
315名を派遣**

—ホール5団体の仕事に忙殺されて、同友会としての活動に手が回る状況ではなかった、という感じですか。

松田 昨年の5月以降くらいからは、同友会としてボランティア活動も始めました。ただ、同友会の

理念である「よりよい産業を目指す」という面での活動は、震災対応に追われてやや手薄になったという感は免れないと思います。それだけにこれからの1年こそが、真価の問われる年になるだろうと思いますし、背筋をピンと伸ばして、気を張ってやっていかねばならないと思います。

—同友会会員の中では、被害に遭われた会員の店も多かったそうですね。

松田 店が完全に流されたという会社は2社。何らかの被害を受けたという会員を入れれば、13社に及びます。したがって、当初の義援金は、まずは同友会の仲間支援ということ、3070万円を持って現地に行きました。ボランティアも5月末〜10月末の22週間のべ315人をがれき処理などに派遣しました。今年度も、現地の

**足を運んで
現地の姿を
学んできた**

—松田さんご自身も何度か現地に足を運ばれたそうですね。

松田 4月はじめに宮城県石巻市、多賀城市を回って、義援金を届けたいのはじめ、宮城、岩手の被災地に、2回は足を運びました。現地を回って感じたことは、「早く店を開けてくれないか」というような要望を訴える方が、だんだん多くなってくることでした。店が再開すると、お客様同士が知り合いと「再会し」「おお、生きてたか」と感激の涙を流すというような光景も見られます。東京では、被災地で店



を再開するなんて不謹慎と思われるのではないかと心配する人もいました。が、現地の空気とは相当の違いがあるな、というのが実感です。

——今年の3・11には、何かお考えですか？

松田 業界5団体で協議して、一致してできれば、3・11で犠牲になつた方々を追悼し「ネオンの1日消灯」などを考えています。同友会だけでなく他のホール関連団体にも提案するつもりです。

大きな変革期 損益分岐点を どう下げるか

——震災問題はひとまずおくとして、業界の抱える問題も深刻です。4円パチンコの不振、参加人口の伸び悩み、若者層のパチンコ離れなど…。

松田 いろいろな要素があるんだろうと思います。ただ1ついえることは、今が大きな変革期なので

はないかということ。われわれの直面する4円パチンコの不振という問題も大きな変革の時代にあるのだということを認識すべきなのではないでしょうか。4円パチンコの不振という現象は、ただ単に機械がヒットしないとか、若者が離れていくとかいう問題ではなく、やはり、われわれの産業全体のトータルコストをどう下げていくかという問題だと思います。それは、ただ単に設

備や機械が高い、という個々の問題を超えて、ホール経営の損益分岐点をどう下げていくのか。4円パチンコだろうがなんだろうが、その中でお客様に気軽に安く遊んでいただけるようになるにはどうしたらいいのか。このような取り組みに、個社だけでなく業界全体が、財務基盤も含めて、強靱な体質を作り上げていくという、大きな意識改革と構造改革を押し進めなければならぬと思います。

4円パチンコが不振といわれていますが、4円パチンコが高稼働のお店も多数あります。ではなぜそんな経営ができるのかといえば、損益分岐点が低いからなのです。経常利益額をいくらにするかというのは、それぞれ個社の判断でしょうけど、必要以上に利益率を上げようとすれば、お客様に手軽に楽しんでいただける営業はできません。いま、この時代でもしっかりとした堅実な経営を行っている会社というのは、一様にこのパーセンテージが低い。巷で言われている利益率よりはるかに低い。個社にはそれぞれの考えがあり、なにかを強制することはできませんが、こうしたことを

安定的な雇用を つくり出す 最大の社会貢献

トータルにみんなの本気で考えていくことが必要だと思います。

あと20年から25年すると、この産業もいよいよ100年続いた産業になります。学卒採用の一期生達もいまでは45歳、あと15、16年もすれば、リタイアの時期を迎えます。子や孫にバトンタッチする時を迎えるわけです。40代というのは、そうした人としてのライフサイクルが、徐々に見えてくる年代でもあります。人生の最もいい時期である40年間をパチンコ産業で過ごした彼らが、いろいろ大変だったけどここにいてよかったな、と思えるような産業の姿を造ることこそ、この産業の社会的な地位向上につながるのだと思います。しっかりとした、安定的な雇用を作り出すという意味で、最大の社会貢献なのではないかと思えます。そうしたことも含めて、もっとこの産業の構造的なものを含めて、トップ経営者の皆さんが変らなければ、パチンコ産業の20年、30年先



ホール経営者が話し合
らというのではなく、

はない。このような危機感を持ちながら、今打てる手はないのか。ここから2、3年かけてこの産業のあるべき姿は何かを議論し合い、そこに向かって進むアクションプランを作り挙げられたらいいなというのが、私の個人的な想いなんです。

何年かあとに 全国一律で 分煙の宣言を

——若者のパチンコ離れについて、特にお考えはありますか。

松田 若者が抱えている問題は多いと思います。たとえば就職難。こうしたことについては、パチンコ産業としても、雇用の創出に協力していけるのではないかと思います。禁煙・分煙の問題も大きい。私が業界に入った29年前は、パチンコ3悪として、コワイ、ケムイ、ウルサイの3つがあるといわれましたが、業界の努力もあってコワイはさすがになくなりました。ウルサイもやがて技術革新が問題を解決してくれると思います。ケムイについては、行政がそういうか

らというのではなく、ホール経営者が話し合
って、何年後にはパチンコホールは全国一律で分煙します、と国民に向かって宣言できるようになればいい、と思っています。

遊技しなくても 人々が出逢う そんな場所に

——将来のパチンコ産業に対して、どのような夢をお持ちですか。

松田 3・11の被災者の皆さまが、パチンコ店が再開されたと聞いて素直に喜んでいる——こうした姿を見て、「ああ、やっぱり人間には、明日への活力を生むためにも娯楽が必要なんだな」と感じました。パチンコ業を営む人間として、その姿は感動的。ホールに来て、元気になって、帰っていただく、これこそがパチンコの原点です。商売ですから、そこに売上も絡んでくるのはいたし方ありませんが、これから進む高齢化社会の中でシルバーの方にも、パチンコホールが1つのコミュニティホールとして利用されるような、そんな姿を描いていけたらいいと思います。

パチンコをしなくてもいい。休憩所で人と出会い、会話を交わし、元気になって、帰っていただく。適度な射幸性というものが、人のストレスを発散させ、篠原教授のお話によれば脳の活性化に役立つともいいます。どういう形をとるにしろ、こうしたもので人々の幸せを増進し、日本を元気にしてゆくと、これが私たちの使命ではないでしょうか。

ホール団体には それぞれの歴史 力を合わせよう

——ところで、松田さんは、日遊協でも部会長や副室長など専門委員会の要職を何度か務めていただきました。むろん、今も会員でいらっしゃるわけですが、日遊協と同友会との違いというのはどういうところにあるとお考えですか。

松田 日遊協の委員会に出させていただいて、最初に驚いたのは、その人数の多さです。組織が大きいのですから当然だろうと思いましたが、こうした大きな組織を運営していくのは大変だろうなというのが率直な感想です。その後、部

会長もやらせていただきましたが、メンバーは20人以上。同友会でしたら委員会の規模です。そこで私は、20人のメンバーを4つのチームにわけました。その点、同友会は少人数ですから、いろいろなことに小回りが利きます。

——同友会のメンバーの方のほうが若い方が多いということもありますか。

松田 私が所属した日遊協の部会では、やはり現場に近い方が多かったせいか、若い人が多かったですね。しかも、みなさんこの産業に対して非常に熱い想いを持っていらして、こうした若い人たちの熱い想いを、いい方向に導くことも私たちの重要な使命なんではないかと思うべく考えさせられたものです。いま業界は5つの団体に別れていますが、その目指す方向は同じです。では何で別々にいるのかということについては、それぞれの団体がいろいろな経緯を経てこうなっているわけで、そうした歴史も無視することはできません。他方、それぞれの団体には、それぞれの強みがあり、力をあわせてこの産業を前に進めていくことができればいいと思っています。

徒弟で他店に近代化の必要性思い知った

——この業界に入るきっかけというのはどういうことだったんですか。

松田 それまでゲームセンターを経営していた父が、当時、フィーバーブームで沸いていたパチンコ店をやるといっているので、私に、1年間修行に行つて来いと。そこで知り合いのパチンコ店に勤めたのが、この業界に入るきっかけです。1年間の修行の後、創業の1号店を任されました。昭和58年のことです。

——業界に入ったときの印象はいかがでしたか。

松田 当時のパチンコ店従業員の労働環境というのは、ひどいものでしたね。修行に行った店は、従業員はお店に住み込み。いまは2交代制が当たり前ですが、当時は3交代制。8時に出勤すると1時くらいまで働きます。それから4時間くらい休んで、また働く。これでは1日中拘束されているのも同じじゃないか、と思いました。有給なんていうものもありませんでしたし、雇用形態もあいまいな

まま。こういうことをしっかり整備していかななくては、業界の社会的地位の向上はないというよう

ことを強く感じました。ただ、そうはいつても、目の前のパチンコ店の経営に追われていましたから、それから10年くらいの間は、大きな志もすっかり忘れていましたね

(笑)。ただ、10年ぐらいたって、これからは学卒採用で、きちんとした社員を育てようと思ったときから、それにはやはり近代的な労働環境が必要だということ

で、急速に整備を進めました。それは正しい方向だったと思います。

——ご自身の会社の(株)エムズ・ユ1では、社会貢献活動も盛んですね。能登半島地震(07年)で社員の方たちがボランティアに行かれたとき、本誌で一度取材させていただきました。

松田 あの時も、社員にボランティアを募ると、女性従業員までが手を挙げてくれました。若い人たちの社会貢献活動への意欲という

様々な活動社会貢献では継続が大事

——ご自身の会社の(株)エムズ・ユ1では、社会貢献活動も盛んですね。能登半島地震(07年)で社員の方たちがボランティアに行かれたとき、本誌で一度取材させていただきました。

松田 あの時も、社員にボランティアを募ると、女性従業員までが手を挙げてくれました。若い人たちの社会貢献活動への意欲という

の、大変大きなものがありますね。3・11では、日赤の血液センターと連携し献血車を各店に巡回しました。義援金も集めました。ただこうした活動で一番大切なのは、やはり継続して行なうということではないかと思

います。——社内に常設の社会貢献委員会というものができているそうですね。

松田 そこが司令塔になって、私たちにできる様々な社会貢献について議論し、実行しています。水道の蛇口をしっかりと閉めるのも節電であり、立派な社会貢献なんだ

といったことです。最近では、自殺防止のための「命の電話」活動への



明るさでも人をひきつける松田代表理事

支援やプルタブ収集、各店の100mの範囲内の定期的な清掃、地元の花火大会の支援など、さまざまな活動を見つけて、実践に移しているところ。こうした活動を通じて、一人一人の社員が社会人として成長してくれればいい。それが会社が会社の成長につながるというのが、経営方針です。

——ご趣味は。

松田 登山ですね。知人に連れられて登ったのがはじめて、もう10年くらい続いています。鳥取県の大山、愛媛の石鎚山、徳島の剣山。年に6〜7回は登っています。就職内定者を連れて登ることもありません。

——会社経営で大切にしている motto、座右の銘などありますか。

松田 若い人の夢を実現するために、この人生が終わるまでチャレンジして行こうと思います。座右の銘は「知行合一」。王陽明の言葉。学び知った知識と行動が合致しなければ学んだ事にはならないと言いう意味。考えるよりも行動、精いっぱい全力で今を生きることをがすべてだと考えています。

——興味深いお話をいっぱい、ありがとうございます。